



のかけ橋

A bridge of dream

左官技能職

しろい さくや 白井 朔弥 さん

私は、鹿屋工業高校の建築科で建築の基礎について学びました。3年生の頃、当時の体育の先生から知り合いの左官職人の働きぶりについて話を聞き、「左官」に対しての憧れを抱くようになりました。卒業後は、若手職人の育成に力を入れていた有限会社田畑工業（大崎町）に就職。「すぐに塗れるようになるだろう」と簡単に考えていましたが、左官は複数人での流れ作業も多く、右手で塗れるようになる必要があったため、左利

きの私はまずそこで苦戦しました。しかし、先輩の指導を受けながら様々な現場を経験し、繰り返し塗りの練習を重ねると、就職2年目には作業に慣れることができました。4年目となった現在では、伝統建築、近代建築、店舗・住宅等で様々な仕上げに携われるようになり、現場管理や指示出し等を行う職長も任せられるようになっていきます。また、今年の6月に左官職種の技能検定2級を受験。そこで優秀

な成績を収めることができたため、11月に愛知県で行われる「第61回技能五輪全国大会」の参加選手として県代表に選ばれました。左官の技能五輪大会では、塗り壁や石膏の施工を完成させるまでの、正確さと技術の高さが審査されます。本番では時間との戦いで、作業の正確さに加え作業スピードも求められるため、本番の約1か月前から一つひとつの工程を確認しながら、集中して練習しています。特に石膏で造形する「置き引き」という工程を重点的に練習中です。

職人は学ぶことが多く一人前になるまでが難しい世界ですが、本気で職人になりたいという気持ちで仕事に食らいついて努力すれば、仲間とともに現場を作り上げていく喜びと達成感を感じることができるとのことです。将来は、技術の高い左官技能士になれるように、まずは目の前の技能五輪に向けて全力で取り組みます。



【左】 軽量鉄骨を組み上げる練習。左官の先輩から指導を受けながら、工程の精度を高めていく

【右】 土間コンクリートや基礎の補修施工では、きれいに塗れているか、見る角度を変えて何度も確認しながら施工を行う

information

鹿屋市出身の22歳。妻と子ども2人の4人家族で、笠之原町で暮らしている。子育て中で、長男がイヤイヤ期で大変と語る。趣味はバイクと釣り、愛車は知り合いから購入した「カワサキ・Dトラッカー」。